

第186回 番組審議会

1. 日 時 平成21年10月13日(火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲東の間」
3. 委 員 委員総数 13名
出席委員数 12名(欠席委員数 1名)

○出席委員(敬称略)

中村 慶久(委員長)
椎井 一意(副委員長)
—以下50音順—
久慈 浩介
斎藤 純
斎藤 雅博
東海林 千秋
菅原 正二
中川 真
中原 祥皓
村上 幸子
役重 真喜子
吉田 浩次

○会社側出席者(5名)

佐藤 滋樹(代表取締役社長)
小原 忍(専務取締役)
藤澤 利憲(常務取締役)
前田 秀男(取締役編成技術局長)
松舘 守(めんこいエンタープライズ 制作部 部長)

○事務局 村田 重昭

4. 議 題 山・海・漬

「ガタガタ、ゴトゴト、馬面電車！花巻電鉄廃線紀行」

平成21年8月29日（土） 18：00～18：30放送

5. 議 事 概 要

今回は、山・海・漬「ガタガタ、ゴトゴト、馬面電車！花巻電鉄廃線紀行」について審議しました。

各委員からは「古き良き時代、ノスタルジーを感じさせる映像が懐かしかった」「地域の歴史の一端が分かり、大変有意義だった」「近代化遺産や廃線跡などがブームになっている中、資料価値が非常に高いものだった」など番組を高く評価する意見がありました。

また、一方で「せっかく歩いたので見る人にも距離感がわかるような、工夫がほしかった」「沿線の“今”の情報も少し伝えられたら幅広く見られたのではないか」などの意見がありました。さらに「今後も地域の歴史や埋もれている知識を、もっともっと掘り起こしてほしい」という番組に期待する声がありました。

6. 議 事

○事 務 局

ただいまより第186回番組審議会を開催いたします。

本日まで出席の委員は12名、ご欠席は八木橋委員のお1人です。

今回の議題は、8月29日（土）放送されました、山・海・漬「ガタガタ、ゴトゴト、馬面電車！花巻電鉄廃線紀行」です。本日は番組制作にあたっためんこいエンタープライズ制作部の松館部長が出席しております。

それでは、中村委員長よろしくお願ひいたします

○中村委員長

まず、松館さんから今回の番組の背景などについてご説明をいただきたいと思ひます。

○松館部長

めんこいエンタープライズの松館と申します。よろしくお願いいたします。

山海漬は1996年の10月にスタートして、今月で14年目となります。岩手県内の番組のなかでもかなりの長寿番組に入ると思います。番組のコンセプトとしては、広大で豊かな自然と文化の宝庫である岩手を「山・海」と捉え、毎回趣向を凝らした漬物を提供する、というものです。今回8月29日の放送で551回になります。

今回の企画は、7～8年前に「山・海・漬」で私が制作した「松尾鉱山鉄道廃線紀行」をヒントにしました。松尾鉱山鉄道の際は、廃線跡がほとんど分からない状態でした。田んぼの畦道が線路跡だったり、路線跡に朽ちた変電所が残っていたりして遺構を発見する面白さがありました。今回はそうした部分がほとんどありませんでした。基本的にサイクリングロードになっています。道路脇を歩いていたということが全部分かっていたため、線路跡を歩くことにしました。

番組は出演したお二人の菅原さん、菅野さんのお話がとてもお上手だったことや、花巻電鉄を愛していらっしゃる方だったことに助けられました。基本的にインタビューの部分も取り直しをしていません。行く先々でお話をうかがった方々も、花巻電鉄のことになると生き生きとした表情で情熱的にお話をしてくれました。

今回、この番組を作ってみて本当に花巻電鉄が地域の人々の生活に深く関わっていて、単なる一交通機関以上の存在だったことを改めて感じました。本日は委員の皆様のご意見を頂戴して、今後の番組作りに生かしていきたいと思います。

○中村委員長

村上委員、よろしくお願いいたします。

○村上委員

非常に気持ちのいい番組だったという感想を持ちました。花巻電鉄が昭和47年に廃線になった頃は私も物心がついていましたが、乗ったことも実物を見たこともありませんでした。たくさんのスチール写真による再現や出演された地元の方からの証言で、生き生きと電車が蘇ってきて、このような追体験は初めての感覚でした。

玉井アナウンサーが、出演されたお二人の情熱をうまく誘導しながら一緒に歩くという流れが、とてもスムーズでした。当時を一緒に体験しているような感じがして、あっという間に見終わってしまいました。現在の写真と昔の写真をだぶらせたシーンがありましたが、出

演された皆さんの思いを乗せて、ついこの間まで走っていたという名残が、番組のあちらこちらに感じられました。

もうひとつ驚いたのは花巻温泉や志戸平温泉の当時の賑わいです。一大レジャーランドとしての遊園地施設、そういえば子供の頃1回行ったのかもしれないな、というシーンが蘇ったりもしました。今とは全然比較にならないほどの大レジャー基地だったということ、改めて感じました。時代は変わってしまいましたが、楽しい華やいた頃の記憶はご年配の方々にはまだ残っているのが分かりました。鉄道は特別なものだということを感じましたし、車とも人の足とも違う鉄道のレールがもつ魅力を、番組ではストレートに再現していたと思います。

○中村委員長

東海林委員、お願いいたします。

○東海林委員

私はこの番組を見て、忘れていた記憶が蘇ってきました。志戸平温泉のレジャー施設のアトラクションに父と一緒に乗って、ぐるぐる回ってものすごく怖かった記憶です。この番組をきっかけにいろいろなことを思い出しました。一度だけあの花巻電鉄に乗ったことがあるはずだと思い、すぐに父に電話をしたところ「1回だけ家族で行って、あの電車に乗って志戸平へ行った」と言っていました。父に花巻電鉄の思い出を聞いたところ「膝がぶつかる狭い電車だった」。バスも通っていたらしいのですが、「やはり乗って見たかったので、1泊旅行の荷物も抱えていたけど電車にした」と言っていました。

当時、盛岡には藤原パーラーのレジャーセンターと蛇の島サニーランドがありました。志戸平のレジャー施設は当時の小学生にとっては憧れで、あの当時、岩手の人たちでもアミューズメント施設を作っていたというのはすごいと思います。出来れば今度はレジャーセンターとか、蛇の島サニーランドの番組も山海漬でやってほしいと思います。

番組の中で、花巻電鉄を運営していた会社の歴史などを、もう少し詳しくやってくだされば良かったと思います。

○中村委員長

役重委員お願いします。

○役重委員

花巻を取り上げていただきありがとうございます。見る風景、見る風景、あそこだ、ここだと。出てくる人もあの人だ、この人だ。非常に親しみをもって見せていただきました。

お天気も良かったし、沿道のあの方々のキャラが良かったです。玉井アナのちょっとキレの悪いというか、のんびりした一テンポずれるような雰囲気さがすごく合っていました。良い起用だったと思います。

花巻の人は花巻電鉄を皆懐かしがっています。馬面電車とも言いますが、私達のところではハーモニカ電車とも呼ばれていました。あれはハーモニカのように平べったいからでしょうか。よく故障して脱線して乗客が皆で降りて電車を押して戻したという思い出話を聞く事があります。遺構はほとんどないのですが、若葉町の辺りには若干軌道が残っているところがあります。アスファルトに埋まりかかっていますが、なぜこんな所に鉄道の軌道があるのかと思っていました。「これは実は昔電車が西の方まで走っていた」と言われました。廃止になったのは鉛線が昭和43年、花巻温泉線が47年だったと思います。取材は1日で歩かれましたか？

○松館

2日かけました。

○役重

せっかくずっと歩いたので、見る人に距離感がわかるような、今何キロ地点というような工夫があるとおもしろかったと思います。

個人的な感想としては、商店街、町場の方というのは「昔は良かった、昔は栄えていた、賑やかだった、ここに店があったが今は皆なくなった。これは時代が悪い、社会が悪い、政治が悪い」となります。それに対して田舎、農村や山場の人たちは「昭和30年代、40年代はまだまだ、食べるものがなかった。寒かった、電気がなかった。風呂は1週間に1回入れれば良かった」という世界でした。昔より自分たちは頑張ってきた。社会を良くしてきたというものがありました。私は東和町が花巻市と合併をして温度差を感じています。昔は良かったというところからは何も生まれません。岩手に限らず地方都市がどんどん衰退していくという淋しい感じも受けました。

そんな話しを周りの人にしてみると「昔は良かったというだけでは駄目。花巻電鉄を復活させて観光の目玉にするかとか、何かアイデアが番組審議会に出たらぜひ持って帰ってきてください」と言われました。大変楽しませていただきました。

○中村委員長

久慈委員、お願いします。

○久慈委員

私の生まれた年、昭和47年になくなった花巻電鉄。花巻に電車があったことは全く知りませんでした。今回は昔の映像が写真やビデオで流れて、こんなに賑わっていたのだということが私にも分かったので、非常に良かったと思いました。

電車自体も足がくっつくとか、今の電車とは全然違うことを楽しませてもらいました。

番組の構成としては、歩くだけしかなかったということでしたが、もう少し、例えば当時の駅弁があったなどの話しがあれば、もっと面白かったと思います。「山・海・漬」は「食」のイメージがあるので、少しでもそういうものがあると良かったのではないのでしょうか。

僕らの世代が見ても「へえー？なるほど」と思うような番組でした。作りとしてはとても優しくシンプルで、昔のことがフラッシュバックするようなものだったので、すごく良かったと思っています。

○中村委員長

吉田委員、お願いします。

○吉田委員

まさにノスタルジーを感じる番組でした。非常に印象に残ったところが2つありました。ひとつは温泉に宿泊に来られた人たちが紙テープで別れを惜しむところで、まさに人間味を感じました。また、当時電車を利用していた人たちが、どこの誰が、どこの出身で、家族、兄弟何人でということをもみんな分かっていたという話しを聞いて、当時の世相がそういうものだったことを思い出し、本当に懐かしく見る事が出来ました。

私にとって発見だったことは、県内のレジャーランドの先駆けが花巻だったということでした。当時、花巻の町があれほど賑わっていたのかということ、大変貴重なフィルムだと

思います。昭和5年当時のフィルムでした。モンペ姿が映っていましたが、私は「これはすごく貴重だ」と思いました。昭和5年といいますと、当時の岩手日報に盛岡で最大の繁華街であった肴町に、昭和5年に街路灯の「すずらん灯」が点いてもものすごく賑わっていたという記事が出ていました。まさに盛岡の銀座通りだったようです。でも、花巻も盛岡に負けないうほど、繁盛していた当時を思い出しました。

電車の廃線紀行は、人のさまざまな思いが一杯詰まっているものだと思って見ていました。歴史そのもののロマンを感じました。こういうことを取り上げたスタッフの皆さんに拍手を送りたいです。まだまだこれに類したものがたくさんあると思います。そういう意味で、題材となった花巻電鉄は「山・海・漬」という人気番組の質感を益々高めたい「材料」だったと思います。

○中村委員長

椎井委員、お願いします。

○椎井副委員長

私もこの番組を心安らかに、アットホーム的に拝見いたしました。地域の歴史の一端が分かり、大変有意義な番組だったと思います。

特に、東北で初めて通った電車が花巻電鉄であったことは、非常に驚きでした。大正4年、1915年に開業ということですが、当時、岩手県では電気が点っていなかった地域がかなり多かった訳です。そうした中で電車を走らせようとしたことに二度びっくりしました。

岩手県で一番最初に電気が点ったのは明治38年、1905年です。盛岡電灯（盛岡電気株式会社）で、築川水系の宮古に行くところに宇津野発電所があります。その次が、この大正元年の花巻電灯（花巻電気株式会社）でした。電灯が点って時間をおかないで電車を走らせようとした花巻市の人たち、事業家には心意気のある人がいたのでしょう。非常に先見の明があったと思っています。

今と昔を比べますと、やはり光と影、プラスの面とマイナスの面が出てきます。プラスの面をもっと生かして、新たな地域の発展を遂げるようなアイデアを出し合った方がいいと私自身も思っています。人によってプラスとマイナスの基準は違うと思いますが、なんとか両立させたいものです。便利になればなるほど人情が薄れるとかよく言われますが、それうまく両立させて地域の発展に結び付けてもらいたいと思っています。

電車は新幹線や自動車に比べてスピード感がありませんが、ロマンを感じる乗り物です。今、電車は見直されてきていると私は思います。環境問題などからも世界各国で電車をもう一度走らせようと運動も起きていると聞いています。この花巻電鉄の歴史と宮沢賢治の童話の世界をうまく合わせて、新しい街づくりに取り組んでもらう事がこれからは大切ではないかと感じました。

よそ者としては大変勉強になりました。ありがとうございました。

○中村委員長

菅原委員お願いいたします。

○菅原委員

非常に涙が出ました。電車を初めて見たのが花巻電鉄でした。当時はまだ私も小さかったので、電車があんなに小さいとは思っていませんでした。私は父親と一緒にどこかに行った思い出はその時だけでした。一回だけ志戸平温泉に行ったことを、映像を見ながら思い出しました。花巻温泉の駅も僕らの世代は覚えています。賑やかな時期もけっこう続いていました。今でもあそこに行くのが懐かしいです。サイクリングロードになったところも見ますが、あそこを電車が走っていたと今でも思います。

廃止になったのが46～47年ですから僕は既にベイシーを開業していました。あの頃、廃止に憤りを覚えました。あれを残していたら今ならすごい名物になって全国からワンサカ人が来ていたはずですよ。赤字であろうが意地でも残すべきだったと残念に思っています。鉛温泉の売店のおばさんにもこの間、会ってきました。そのままです。

おぼろげな記憶を映像で見たので、個人的にはとても嬉しかったです。この番組に関しては非常に感謝しています。どうもありがとうございました。

○中村委員長

中川委員お願いいたします。

○中川委員

今、電車があったら東京から皆が来て、温泉に行ってマルカンデパートに寄って、昭和レトロを楽しんでという、花巻の新しい魅力が出来たのではないかと私も思います。

私は子供の頃、東京から小田急のロマンスカーに乗って箱根に行きました。登山電車とかケーブルカーや観光船に乗って温泉に行って帰って来るのが、東京の子供達の夏休みの一番の楽しみです。花巻電鉄に乗って温泉に行くというのも、ある時代の岩手の子供達にとってものすごい楽しみだったのではないかと思います。レジャーランドという非日常の楽しみを与えたのが鉄道であり、もう一方で地域の人たちの足だったので、廃止になったことは非常に残念だったと思います。

鉄道の歴史というものは50年とか60年というのが寿命なのかもしれません。そこで本当に必要性があれば近代化ということになるのですが、そういうふうに割り切るのも寂しい気がします。

いろいろなことを考えながら番組を見ることが出来て、本当に有意義な番組でした。

ひとつだけ印象に残ったことは車掌さんだった菅野さんに、玉井アナが、「どこそこのお子さんがどこの学校でとか車掌さんは知っていた、そういうことをみんな言っていますよ。あなたのことを覚えていますよ。」と言うと、菅野さんが目を輝やかせて声を大きくして「やあ、そうなんです。ずっと黙っていましたが実は・・・」というシーンがありました。あそこはいいなと思いました。あれがテレビの魅力です。新聞でインタビューをして文章にすることはできても、聞き手としては難しいと思います。テレビはさりげなく放映できるのが強みだと思いました。あその場面がすごく良かったし印象に残っています。いい番組だったと思います。

○中村委員長

斉藤純委員お願いします。

○斉藤純委員

とても面白く見ました。今、近代化遺産や廃線跡などがブームになっています。たくさんの人にこの番組が喜ばれたと思います。資料価値が非常に高い番組であったと思います。

地域の歴史、埋もれている知識を、まだOBの方々が健在で、他にもまだあると思うので、ぜひ掘り起こして行ってほしいと思います。

番組とは離れてしまいましたが、石神の丘美術館で昭和30年代位の、岩手町、県北の農家の写真展をやっています。こういうのをやっても農家の人は見に来てくれないと思っていました。貧しい時代をそのまま写し撮った写真展です。ところが予想に反して美術館に来たこと

のない80代の人たちが孫に連れられて来ていました。そこで孫に向かって「米もなかった。ヒエ、アワを食べていた。」昭和30年代なのでついこの間のことです。泣きながら話していました。

「貧しかったけどあの頃の方が楽しかった」というのがお年よりたちの圧倒的な意見でした。なぜか、その答えはまだ見つけられません。今の方がはるかに豊かで、恵まれているはずなのに「今よりあの頃の方が楽しかった」というのは、単なるノスタルジーではない何かがあるのだらうと思います。

東北芸術工科大学の赤坂憲雄先生にお会いしてきました。昔の写真展は後ろ向きになりがちでノスタルジーで終わってしまう。それではつまらない。この番組についても言えることですが、「世代を繋ぐツールにきなさい」ということを赤坂先生からアドバイスされました。世代を繋ぐツールとして、こういう記録フィルムのようなものが役立つということを意識して作ると、ただ後ろ向きで、懐かしいものだけで終わるものではない番組になっていくと思いました。

もうひとつは、せっかくサイクリングロードなのに歩いていました。私は和食をナイフとフォークで食べているような違和感がありました。番組が点と点をつないでいくような作りだったので、あの辺は自転車で移動している様子を遠くから映しても良かったと思いました。でも、これは永久保存したくなるほど気に入った番組でした。

○中村委員長

齊藤雅博委員お願いします。

○齊藤雅博委員

私の実家が北上で、よくこの電車に乗りました。非常に懐かしく郷愁を誘うものでした。高校の頃まで走っていたのですが、よく乗っていたのが子供の頃だったので、記憶が定かでないところがたくさんありました。菅野さんや菅原さんの説明を聞きながら、記憶が欠けていたところが画面で蘇ってきました。花巻周辺の人や乗った経験がある人はそのような思いで見ているのではないのでしょうか。

私は花巻温泉線や鉛線も家族で、父親に連れられてよく行っていました。鉛線の方は、小・中学生の頃に鉛温泉スキー場に行った思い出があります。膝がぶつかるような電車で番組では馬面電車、先ほどはハーモニカ電車と言っていましたが、私は当時、マッチ箱電車と聞いて

た記憶があります。子どもの頃は運転手のすぐ後ろに立って、運転する様子を見たり、切り替えの時にパンタグラフを操作したりするのがすごく面白かったので、覗き込んで見ていた記憶が蘇ってきました。

昭和40年の初め頃からは、バスも平行して走っていたと思います。最初の頃は電車に乗っていたのですが、バスの方が時間的に早かったので途中からはバスに乗った記憶があります。時代の流れだったのではないかなと思います。

今回、廃線紀行ということで合わせて26キロ、玉井アナウンサー、本当にご苦労さまでした。途中で、花巻電鉄の思い出を語る人たちを通して当時の様子がよく伝わってきました。遊園地の写真など古き良き時代の温泉に思いを馳せることができました。私はノスタルジーということで見てしまいましたが、若い人はどのように見たのか少し気になりました。

歴史として過去を知ることは大切ですが、美味しいものとか鉛線にあるたくさんの温泉も紹介してはどうかと思いました。藤三旅館の写真もありましたが、“今”の情報も少し伝えたらもっと幅広く見られたと思います。

高村光太郎や宮沢賢治もおそらく乗っていると思うので、そうしたエピソードも出したら面白かったと思いました。

今、経済同友会でも「まず価値を発見しよう。そこからスタートしよう。」ということで活動をしています。次のステップは価値を開発して経済活性化に結びつけていくことです。

そういう意味でもこうした昔の遺産を発見するのは、非常に大事なことだと思います。ぜひ、今後とも取り組んでいただきたいと思います。

○中村委員長

中原委員お願いします。

○中原委員

馬面電車というのは初めて聞きました。私はハーモニカ電車として知っていました。初代の電車が残っていましたが、どこにあるのでしょうか？

○松館部長

花巻駅近くの材木町の公園にあります。

○中原委員

私は初めて知ってその車両を見に行きたいと思いました。番組では当時の写真や映像もありましたし、現在の実写もうまく組み合わせていたので興味を引かせてくれました。30分もあっという間だったという思いでした。それぞれの委員の思い出を誘発するものをもっているということで、こういった番組には誰もクレームの付けようがないのかもしれませんが(笑)

電車を今、動かしたらどうなのか？ 馬に引かせるか？ レールを付け足して走らせることはできないものか？ そうすればたくさんの人が集まるのではないのでしょうか。市の商工会議所や観光課に一言、番組で問いかけができなかったのかと最後に思いました。いろいろなことを考えさせられた番組のひとつでした。ありがとうございました。

○中村委員長

30分があっという間の、今回も見惚れた番組でした。特に玉井アナの飄々とした、素のままずっと引っ張ってもらったことと、菅野さん、菅原さんお二人の絡みが楽しく非常に良かったと思います。

そして、当時のゆかりの方々、お爺さん、お婆さんたちがいい話しをしてくださって良い番組だったと感じました。

花巻温泉にはほとんど行った事はありませんが、まさかあのような電車があるとは思いませんでした。番組を見ていて花巻駅のところに、あのような看板やホームがあったことを思い出しました。似た様な形で秋保電鉄というのがありまして、私が大学にいたころに廃線になりました。両者をダブらせて懐かしい思いで見ました。馬面電車、ハーモニカ電車が残っているのが嬉しかったです。

あれは観光スポットになるような気がします。こういう電車は珍しいので日本では他にないのではないのでしょうか。それだけでも見に行こうという鉄道ファンが来てくれるのではないかと感じました。

全体を通して、やはり廃線になったのは「もったいなかった」という感じがします。今でもいろいろな古いものを壊す話がありますが、壊すことの難しさ、失くす事の難しさを感じました。

広島や長崎は路面電車を有効活用して古いのから新しいものまで走らせています。仙台は邪魔にされて失くしてしまいましたが、今頃になって地下鉄を作るのに反対運動が起きて、路面電車に戻そうなどという話が出ました。何を今さらですね。

一方で富山の路面電車は、ライトレールという新しい電車を一路線作っています。昔のJRの引込み線を使ったのだと思いますが、新しい観光名所としてお客さんと呼んで、けっこう賑わっています。ヨーロッパでは路面電車がいろいろなところで活躍しています。行くたびに新しい車両に変わっています。アムステルダムなど一番いい例だと思います。

こういうものを失くす事はよほど考えてやらないと、もったいないと思います。今さら作ることは大変かもしれませんが、もし、これがあつたならば花巻に昔の賑わいを取り戻したのではないかという感想をもちました。昔の人があそこに電車を引いたという進取の気性のような思いを、岩手県の人はいま一度、思い起こしてほしいと思います。どこかに集中投下をしてやることも必要なのかもしれません。そうもしないとジリ貧になってくるのではないかという感じを持ちながら番組を見ました。

ひとつだけ、私がこちらに来たばかりのせいでしょうか？「山・海・漬」という番組名と中身との関連がよく分からなかったのもう少し分かりやすくしていただきたいと思いました。番組の当初の企画趣旨をお聞きしましたが、長い間番組を続けるうちに、内容とタイトルが離れてしまっているような気がします。あと、ちょっと気になったのは、音声がちよっと途切れるところがあったことです。難癖をつけるとしたらそれぐらいで、私が番組審議委員になって一番面白かったと思った番組でした。今後に大いに期待したいと思います。

それでは続きまして、欠席委員からのレポートがあれば、事務局から報告をお願いします。

○事務局

欠席された八木橋委員からレポートが届いています。

自分の小・中学生時代の記憶が蘇り、懐かしさが込み上げてきました。総体的な感じとしては山海漬という30分の紹介番組として、よくまとめていたと思います。多分古い時代を若い人に紹介するという目的なのでしょうから、十分に目的を達したのではないのでしょうか。

個別に見ると、特に勉強になったのは西公園、花巻温泉の路線開業が大正4年で、仙台の路面電車や福島の飯坂温泉路線よりも古く「東北初の路面電車」と紹介されていたことです。また、鶯沢鉱山の硫黄採掘運搬にも電車を利用していたことも勉強になりました。更に西鉛温泉の路線についても停留所の風景、昭和30年代の花巻祭りの様子、藤三旅館でのインタビュー等々、懐かしさの溢れる場面満載といった感じがしました。

この番組を見て、花巻温泉地区の未来をどう考えるかというような型苦しい番組ではない

ので、紹介番組として十分と思います。

○中村委員長

ありがとうございました。

これで本日の番組審議委員会を終了させていただきます。

○事務局

ありがとうございました。では本日の番組審議会をこれで終了いたします。

なお、今回の審議会の模様は10月24日（土）朝4時30分から「めんこいテレビ批評」として放送いたします。

次回は11月10日（火）に開催となりますので、よろしくお願い致します。

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

8. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

*平成21年10月14日（水） 産経新聞 東北

* 平成21年10月24日（土）午前4時30分から4時45分まで「めんこいテレビ
批評」内で放送

* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

9. その他の参考事項

特になし